

平成 30 年度 全国私学教育研究集会鹿児島大会 実 施 報 告



平成 30 年 10 月 25 日（木）・26 日（金）の 2 日間、鹿児島県鹿児島市の城山ホテル鹿児島を会場に、「新時代に向けたさらなる私学の躍進」を研究目標に掲げ、「全国私学教育研究集会鹿児島大会」を開催しました。全国私学教育研究集会は、私学教育に係る諸問題の研究と今後の私学教育の発展をめざして、全国の私立中学校・高等学校・中等教育学校の教職員を参加対象とし、全国 8 ブロックの持ち回り制で毎年度開催しており、今年度は九州地区が開催地区となりました。当研究所との連携の下、九州地区私立中学高等学校協議会及び鹿児島県私立中学高等学校協会による周到な準備と、その加盟校から多大なるご協力を頂き、全国の私立中学高校から 681 名の参加者を得て開催し、盛会裡に終了することができました。関係各位に心より御礼申し上げます。

初日の全体集会では、歴史家・作家の加来耕三氏による記念講演「幕末を彩った薩摩の偉人たち」、鹿児島県私立学校活動紹介では、鹿児島実業高等学校新体操部の生徒による新体操演技の披露、日本私立中学高等学校連合会（以下、中高連）の吉田晋会長及び当研究所の中川武夫所長による「報告」を行いました。2 日目は私学経営、教育課程、法人管理事務運営、進路指導、生徒指導、国際教育の 6 部会に分かれ、それぞれの部会研究目標の下で熱心な研究が行われ、全ての日程を終了しました。

第1日「全体集会」

◆開会式



前田均・運営総括委員長の開会のことばで始まり、吉田晋・当研究所理事長、新田光之助・実行委員長の挨拶の後、来賓の三反園訓・鹿児島県知事、森博幸・鹿児島市長（代理：松永範芳・副市長）からのご祝辞を賜りました。続いて、次年度大会開催地区の関東地区を代表して、堀井基章・次期栃木大会実行委員長より 2019 年度全国私学教育研究集会栃木大会の案内も兼ねて挨拶が行われました。最後に、池田由實・副運営総括委員長の閉式のことばが述べられ、開会式を終了しました。

◆全体会

◇鹿児島県私立学校活動紹介

鹿児島県鹿児島市の鹿児島実業高等学校新体操部の生徒による「新体操演技」が披露されました。同新体操部は男子個人競技で全国大会総合優勝を4回、団体競技でも全国大会で入賞、九州大会でも優勝を成し遂げています。今年度も個人種目で九州大会優勝、インターハイ出場を果たしました。女子は、平成8年に創設され、県高校総体で団体競技は13年連続13回、個人競技は2年連続8回の優勝を果たし、九州大会、インターハイへ連続出場しています。今回は長縄と団体の演技を披露し、会場から大きな拍手が送られました。



（参加者アンケートより）

- 生徒達はもちろん、司会の顧問の先生も含めて素晴らしいパフォーマンスだった。
- 開催県の熱意が伝わってきた。
- 本当に素晴らしかった。コミカルな動きがいかにも難しいか考えさせられた。
- 新体操の演技は大変感動した。生徒達が生き生きと楽しそうに演技している姿は素晴らしかった。
- 皆さん自身と誇りに満ちた表情をしており、感動を覚えた。
- 縄跳びのチームワークと笑顔がとても印象的だった。

◇報告

「教育政策と私学情勢について」をテーマとして、吉田晋・中高連会長と中川武夫・当研究所所長より、報告が行われました。吉田会長からは、私立中高校への就学支援や施設設備費補助等の公的支援の現状と課題、公私立中高の生徒数の動向等の状況や問題点、学習指導要領改訂と大学入試改革等の今後の高校教育の現状と課題を報告しました。また、中川所長は、建学の精神の話から始まり、働き方改革、グローバル化への対応、AIと教育、学習指導要領、デジタル教科書等の現在の教育の現状や課題を報告すると共に日本私学教育研究所の活動について紹介しました。



(参加者アンケートより)

- 今、私学が置かれている現状を知ることができ、良い勉強になった。
- 国がどのような方向を向いているのか常に意識出来ればと考えた。県の要望に活かしていきたいと思う。
- 現状を好転させるための熱心な取り組みをお聞きし、私たちも前進あるのみだと力を頂けた。
- 大変分かりやすく何が問題であるのか、これから取り組むべき事は何かを考えることができた。
- 中川先生のお話を聞き、改めて建学の精神は日常で使うべきだと考えさせられた。

◇記念講演

歴史家・作家の加来耕三氏より「幕末を彩った薩摩の偉人たち」と題した記念講演が行われました。講演では、加来氏から、現在を考えるためには過去を振り返り、歴史に学ぶことが重要であるが、よく知られている歴史は誰かによって着色されたものも多く、真の歴史を学ぶことが大切であると示唆頂きました。



(参加者アンケートより)

- 自分の知識の曖昧さと正しい情報が置き去りにされ、面白さだけに追求した情報に踊らされていることに自分の勉強不足を再認識させられた。
- 今後も「立ち止まって考える」事や「流されず考える」事を大切にしていきたい。
- 笑いの中に示唆に富んでいて、私共、私学経営陣に向けたメッセージで結んで頂く等、心遣いを感じた。
- 加来先生の歴史に学ぶ部分を学校で活かしたいと思った。
- 大変楽しくその中に私学として取り組む方向が見えてきた。答えが過去にあるという部分が私学経営で大切なところだと思った。
- 非常に刺激的で有意義な時間だった。

第2日「部会」

◆私学経営部会

「未来を生きる子どもたちのための私学経営」を研究目標として実施し、188名が参加しました。①(兵庫)兵庫県播磨高等学校理事長・校長の摺河祐彦先生による講演「公教育における私学の役割」、②国立研究開発法人産業技術総合研究所臨海副都心センター・イノベーションコーディネータの三宅正人氏による講演「未来を生きる力とは何か」、③学校法人津曲学園理事長、鹿児島国際大学学長、日本ガス株式会社代表取締役社長の津曲貞利先生、公立大学法人福岡女子大学国際文理学部准教授の和栗百恵氏、鹿児島ユニテッドFC代表取締役、公認会計士・税理士の徳重剛氏の3人のパネリストと学校法人三重高等学校校理



事長の梅村光久先生をコーディネーターとしたパネル・ディスカッション「未来を生きる力とは何か」の3つのプログラムが行われました。

摺河先生の講演では、学校教育を取り巻く環境、私学の魅力と重要性、公教育の課題と私学の役割等について話し頂き、三宅先生の講演では未来を生きるための3つの力を知識力、洞察力、想像力とし、ご自身が研究しているゲノムと関連付けながらお話頂きました。

午後からのパネル・ディスカッションでは、私学関係者であり企業人でもある津曲先生、大学にて地域と大学との連携等を研究されている小栗先生、鹿児島ユナイテッドFC代表取締役で公認会計士でもある徳重氏の3名に梅村光久・学校法人三重高等学校理事長にコーディネーターとして加わって頂き、未来を生きる力についてディスカッションを行って頂きました。

(参加者アンケートより)

- 私学の建学の理念の重要性を改めて感じた。
- 摺河先生の講演では私学の役割を改めて確認することができた。
- 三宅先生の講演では科学の研究の極みのようなことについて考えさせられ、命の尊重について再認識させられた。
- パネル・ディスカッションは異なる立場の方々が同一テーマを論じることに面白さを感じた。特に教育現場以外の視点からの意見は大変参考になった。
- 多角的な視点から学校教育を考察することは、客観的で役に立ちそうなヒントが隠されていると気づいた。
- 生徒には明るい未来とどんな場面でも向かっていける行動力が必要だと思った。
- 急速に発展するグローバル社会への対応が見えず、困難な時代を再認識した。
- 「未来を生きる力とは何か？」は現在の教育界の根本的なテーマなので、継続して検討を進める課題がたくさんあると思う。
- 今回のテーマに関して他の先生方にも考えさせたい。

◆教育課程部会

「変化する時代に対応した私学教育の創造」を研究目標として実施し、151名が参加しました。①文部科学省初等中等教育局教育課程課学校教育官の大内克紀氏による講演「新高等学校学習指導要領と大学入学共通テストの動向・解説」、②国立大学法人和歌山大学教育学部准教授の二宮衆一先生による講演「アクティブ・ラーニングを支え、促す評価のあり方」、③(長崎)長崎南山中学高等学校教諭の中島寛先生による実践発表「ICT活用推進を軸とした学校改革の実践」、④(東京)海城中学高等学校校長特別補佐の中田大成先生による実践発表「PA(プロジェクトアドベンチャー)とDE(ドラマエデュケーション)ー新しい人間力育成の為の体験学習ー」、⑤(鹿児島)鹿児島純心女子中学高等学校教諭の園元恭子先生による実践発表「個と集団の学びを深めるアクティブ・ラーニングの実践ー大学入試改革をふまえた中学英語の取り組みー」の5つのプログラムでした。

大内氏の講演は、主に新・学習指導要領の解説で、「主体的・対話的で深い学び」、「カリキュラム・マネジメント」、「学習評価」等とさらに高大接続についても話し頂き、二宮先生には、資質・能力の新しい学力観の育成のためのアクティブ・ラーニングについて、事例を取り入れながら話し頂きました。



(参加者アンケートより)

- 新・高等学校学習指導要領、また大学入学共通テストについて、より理解が深まり、自校における問題点や改善点が見えた。
- 高等学校学習指導要領改訂の動向・解説は今後学校内での研修に活用したい。
- 講演Ⅱではアクティブ・ラーニングを支え、促す評価のあり方について伺い、その過程の評価をよく吟味し、また、目標を強く意識しながら実践していきたい。
- 二宮先生の講演が具体的で分かりやすかった。「高次の認知能力としての資質・能力」についての説明が、いろいろな視点のヒントになった。
- 講演Ⅱのルーブリック作成については専門分野を担当しているため、各科目の課題を踏まえ、細かく考えていきたい。
- 講演Ⅱのジェネリック・スキルの評価、プロトルーブリックと長期的ルーブリック開発、学習のための評価を学校で活用していきたい。
- 評価のあり方の改訂等を現在検討中だが、今回講演にて一つの指針を教示頂いたので、さらに検討を深めたい。
- 評価法に関して、内部の教員の共通理解に向け検討し、また生徒全体の評価のあり方も検討したい。
- 実践発表はどれも素晴らしかった。どの学校も自分の学校の生徒の課題を適切に把握し、ピンチをチャンスに変え、取り組んでいる様子が伺え、刺激を受けた。
- 実践発表Ⅰの生徒会の活用や、Ⅱの PA (プロジェクト・アドベンチャー) の内容は学校で活かしていきたい。
- 実践発表Ⅱの、学校の広報から始まる学校改革がボトムアップであり、それを可能にする職場環境が大変参考になった。
- 実践発表Ⅱの PA と DE 新しい人間力育成の為の体験学習に含まれる要素を汲み取りながら人間力とは何かを考え、実践していきたい。
- とても分かりやすい内容で今後の職員研修に役立てていけそうだ。
- リーダーシップ教育を、生徒を主体として運営に活用していきたい。
- 午前・午後共にあっという間に終わった。それぞれに参考にさせて頂き、生徒への授業の展開に工夫をしていきたい。
- 中島先生の実践発表の世代別会議、ワーキンググループ、システムエンジニアの採用に関して、学校で活用していきたい。
- 長崎南山中学高等学校の取り組みが大変参考になった。私の学校も同じような悩みを抱えていたので、早速他の職員に伝え、プラスにしていきたい。
- 五人の講演・発表を伺い様々な角度から様々なトピックで貴重な意見や情報、実践報告であった。

◆法人管理事務運営部会

「新時代に向けた人材育成～法人管理事務運営組織の活性化～」を研究目標として実施し、59名が参加しました。①城山観光株式会社常務取締役の玉川恵氏、同社人事部女性活躍推進グループリーダーの井手智美氏による講演「働きやすい職場づくりに向けた取り組み～城山観光の女性活躍と働き方改革～」、②横浜第一社会保険労務士事務所代表の田中崇司氏による講演「私立学校における働き方改革～法改正が相次ぐ育児・介護との両立支援を切り口に～」、③株式会社創造経営研究所代表取締役社長の宇都幸雄氏、同所代表取締役副社長の宇都泰平氏による講演「薩摩の郷中教育に学ぶ／SWOT分析による現状の課題発見と解決策」及びグループワーク「SWOT分析」3つのプログラムを行いました。

玉川氏と井手氏の講演は、特に女性が活躍できる働きやすい職場づくりの取り組みについて、鹿児島県女性活躍推進宣言企業への登録、女性管理職の登用・採用の推進、女性の能力・職域の拡大、環境作り等をお話し頂きました。

田中氏の講演は、働き方改革の目的や意義の説明から始まり、私立学校の課題である「長時間労働の抑制」に関する内容と実態、育児・介護を抱える職員への対応についてお話し頂きました。宇都氏の講演は日本教育史上実際に実績を上げた教育といわれる郷中教育をテーマとし、歴史的評価、教育方法や内容を解説頂き、そこから人材の育成のための研修についてお話し頂きました。講演の後はその学校のSWOT分析を行うための演習としてワークショップを行いました。



(参加者アンケートより)

- 既婚女性（男性は産休・育休を減多にとることがない現状なので）の子育て支援という面では、まだまだ対策が遅れているように思うが、城山ホテルの場合はかなり充実していると感じた。
- 毎年、教員採用に苦労しているが、この講演Ⅰの内容を参考に職場を変えていきたい。託児所の設置まではなかなか難しいが、その他の施策は検討したい。
- 城山ホテルの取り組みについて具体的に説明して頂き、参考になった。女性の多い職場での特殊性でやはり女性の働きやすい環境ができており参考となった。
- 田中先生の働き方改革については、自分が勘違いしていたところが発見でき、大変勉強になった。
- 田中先生の講演を聞き、法改正に対応した働き方改革を学校現場で進めたいと感じた。
- 田中先生の講演は非常に分かりやすい内容で、本校と照らし合わせて考えられる有益な物だった。
- SWOT分析をブレインストーミングで実践したい。
- SWOT分析にて多種の意見をまとめるのは実に楽しかった。
- SWOT分析のワークショップは時間の経過と共に理解が深まり、興味深いものだった。
- あるテーマをグループワークで実施することで様々な思考が生まれ、戦略が見出せることが良く理解できた。
- 多数の意見を引き寄せ、解決策やアイデアを集める良い手段だと感じた。職員間でも活用できるテーマで非常に勉強になった。

◆進路指導部会

「進路実現に向けて一人一人が自ら伸びる進路指導の実践」を研究目標として実施し、81名が参加しました。①株式会社リクルートマーケティングパートナーズ進学総研「キャリアガイダンス」編集長の山下真司氏による基調講演『教育改革を見据えた新たな学びの展望～20年後の社会を生き抜くために、生徒に育みたい資質・能力とは?～』、②(鹿児島)鹿児島純心女子中学高等学校教諭の末吉勝也先生による事例発表「変化する社会と『つながり』、人と『対話する』キャリア教育を目指して」、③(東京)國學院大學久我山中学高等学校副校長の國清英明先生による事例発表「別学だからできる! 男女の特性を踏まえた女子のキャリア教育」、④(鹿児島)樟南高等学校教諭の松寄健先生による事例発表「地域と共に進めるキャリア教育の実践」の4つのプログラムを行いました。



山下氏の講演は、「新学習指導要領」を振り返り、生徒にどんな資質・能力を育むか、これからの授業づくり、学校づくりにどう取り組むかを参加者が考える機会となるような講演となりました。

(参加者アンケートより)

- 基調講演(山下先生)に関して、今までもこれからも、「これからの教育で、どのような資質・能力を育んでいくのか」という理念がなければ潰れてしまうと感じた。また、自身の研究も現在取り組んでいる内容を更に加速していきたい。
- 山下先生のペーパー評価から総合評価への大きな転換と探求への取り組みの見直しを参考にしたい。
- 山下先生のお話は20年後の社会を見据え、学習指導要領の読み解きをして頂き、やるべきことの方向性が見えてきた。
- 末吉先生のクエストエデュケーションは主体的に考え、探求し、多くの教科を横断した力を育むことができると感じた。
- 末吉先生の活動を様々な思考と能力育成につなげる取り組みを参考にしたい。
- 事例を紹介して頂いた各校の取り組みは、様々な可能性が見出せたと思う。早速始められることから手を付けていきたい。
- 他校の教育実践は多くの知識吸収になった。
- 新しい取り組み、課題に向けた基調講演、各学校の取り組みについて詳しく知ることができ、大変参考になった。本校でもできることを取り組みたいが、その前提で教員への意識付けがまだまだ不十分だと考えさせられた。
- 事例発表3つを聞いて、どの学校もコンセプトをもって、生徒に対してしっかりとした進路指導の事例で大変参考になった。

◆生徒指導部会

「多様化する教育環境に即した生徒指導」を研究目標として実施し、115名が参加しました。①創成館高等学校理事長・校長の奥田修史先生による講演『「指導」の前にあるべき『承認』～年間生徒指導件数300件からの復活～』、②NPO法人ネットポリス鹿児島理事長の戸高成人先生による講演「情報モラル教育の指導のあり方と指導者研修の充実」、③(埼玉)武南中学高等学校教諭・日本カウンセラー協会上級教育カウンセラーの吉田隆江先生による事例発表「生徒・保護者に寄り



添う生徒指導～兼任スクールカウンセラーの実践から～」、④（鹿児島）学校法人原田学園ことばの支援センター臨床心理士・スクールカウンセラーの山本直彦先生による事例発表「子ども支援からみる生徒指導」の4つのプログラムを行いました。

奥田先生の講演は、自校の建て直しに関して、熱のこもったお話を伺いました。

戸高先生の講演は、昨今話題となっているネットのいじめや依存について概要を説明しつつ、今後子どもたちにネットとどのように向き合わせるか、それに合わせて教職員はどのような知識を持つべきかを明確にした講演となりました。

（参加者アンケートより）

- まさに各先生方の「熱」を感じた部会だった。指導のモチベーションをさらに高められた研修会だった。
- 子どもたちを認める場を増やし、関わる度合いを強くしていかなければならないと感じた。
- 奥田先生の教育に対する熱をできるだけ自分自身に頂けるよう努力したい。
- 奥田先生の話聞き、目が覚めたというか、私は間違っていない、もっとやらなければと背中を押されたように感じた。もっといろいろなお話、体験談が聞きたい。
- 講演Ⅰは生徒指導上重要な部分もたくさんあったが、そもそも学校としてのあり方や目指すべき事を明確にする事の大切さを学んだ。
- 奥田先生の講演内での「楽しいところに人が集まる」という言葉に目を開かされた。誰かのために自分は役立っているという事がその人間を生かしていくという事も真理だなと感じた。
- 「教育は熱である」この言葉を大切に、今後の生徒指導に活かしていきたい。
- 奥田先生の話聞いて勇気とやる気が出た。
- 奥田先生のトーク力や生徒に対しての接し方等プラスになる指導ばかりでとても勉強になった。
- 講演Ⅱでは睡眠障害を引き起こすことも知り、「使い方より使いみち」を考えていかなければならないと感じた。
- 講演Ⅱはスマートフォンが世に出て10年程経つが、現在の生徒はもちろん今後入学する生徒達が更に大きな問題を抱えて入学する可能性がある事を把握しておかなければならないと感じた。
- 情報モラルについては、もっと大人が真剣に向き合うべきである。
- 戸高先生のほめる指導、吉田先生の相手を認めること、山本先生の支援教育等実践を参考に、今後の生徒への接し方を考え直していきたい。
- 安心ネットサポーター養成講座に今後参加し、現在生徒達が直面している問題をより知り、対処できるようにしたい。
- いろいろな事例を踏まえてシェアリングを行い、生徒を取り巻く環境、考え方や行動の様々な話を聞いて共感し、支援していきたい。自分の感情で怒らず、一瞬間をとり、生徒の行動の意味を考え、言葉をかけていきたい。
- 生徒指導と教育相談、カウンセリングがとても近いものであることが良く分かった。
- 生徒とどのように関わるか、どのようにして寄り添っていくべきか、新たに参考にしたい。再確認したいことも多々あった。生徒が心を開いて話したいと思える雰囲気を持った教員でありたい。

◆国際教育部会

『Think Globally, Act Locally』を目指して」を研究目標として実施し、61名が参加しました。①敬愛大学英語教育開発センター長・同大学国際学部国際学科教授の向後秀明先生による講演「次期学習指導要領で求められる“グローバル・マインド”の育成—今から何を準備・実践すべきか」、②公益財団法人ユニセフ協会学校事業部の山口鮎美氏による講演「持続可能な社会の担い手を育む教育の力」、③(愛知)大同大学大同高等学校教諭の伊藤佳貴先生による研究発表「国際理解を主題としたプロジェクト型学習の実践」、④(鹿児島)鹿児島育英館高等学校教諭の吉田美和子先生による研究発表「地域社会から学ぶ実践的国際理解教育」の4つのプログラムでした。



向後先生の講演は、新・学習指導要領の資質・能力と国際教育、グローバル・マインド、主体的・対話的で深い学び、学習評価、学校自体のグローバル化をキーワードとしてお話を頂きました。山口氏からはユニセフの活動の紹介を通して、現在、世界で起きている諸問題の話や、持続可能な開発についてお話し頂き、学校の先生方が一番世界を変える力を持っているとエールを送って頂きました。

(参加者アンケートより)

- 記憶に残る学びにするために、まずは教師から変わることが大切と言うことを聞き、自分もそれに近づけていけるようになりたいと感じた。
- Unicef についての話は国際的な問題をとらえ、まずは自分のできることは何かということを考え、実行することも大切であるという学びを得られた。
- 「このままの授業スタイルではダメだ」とわかっていながらも、どうしてよいかわからず、そのままにしている状況だったが、向後先生のお話を聞いて、大きなヒントをもらえた。
- 非常に有意義な内容だった。現場のニーズと社会のニーズに着目した内容を今後も取り上げて頂きたい。
- 国際理解を深めるためにどのようなアプローチをするべきなのか、何が大切か、講演を聴いて深く考えさせられた。
- 新時代に向けての日本の活路を教育現場に見出せた思いである。
- 「持続可能な」という課題を捉えて、グローバル・マインドを養う活動につながるヒントをたくさん頂いた。また、ボランティアを部活動の中でも取り入れていきたい。
- 教員が世界を肌で感じ、その経験から伊藤先生のように生徒向けのプログラムを開発したい。
- せっかく遠くから他県の先生方がたくさん来ておられる機会だったのでもっとお互いの情報交換が出来る時間が欲しかった。
- 研究発表だけでなく、具体的な実践方法も教えて頂けると現場で授業に活かせると思うので取り入れて頂きたい。

参加者数 (部会別・都道府県別)

◆部会別参加者数

No.	部会名	参加者数	No.	部会名	参加者数
1	私学経営	188	5	生徒指導	115
2	教育課程	151	6	国際教育	61
3	法人管理事務運営	59	7	全体集会のみ	26
4	進路指導	81	計		681

◆都道府県別参加者数

No.	都道府県	参加者数	No.	都道府県	参加者数	No.	都道府県	参加者数
1	北海道	11	17	石川	3	33	岡山	3
2	青森	1	18	福井	1	34	広島	12
3	岩手	2	19	山梨	2	35	山口	6
4	宮城	4	20	長野	1	36	徳島	1
5	秋田	4	21	岐阜	3	37	香川	2
6	山形	3	22	静岡	5	38	愛媛	4
7	福島	3	23	愛知	21	39	高知	0
8	新潟	3	24	三重	0	40	福岡	76
9	茨城	3	25	滋賀	3	41	佐賀	15
10	栃木	15	26	京都	10	42	長崎	25
11	群馬	1	27	大阪	25	43	熊本	35
12	埼玉	1	28	兵庫	8	44	大分	20
13	千葉	9	29	奈良	4	45	宮崎	36
14	神奈川	9	30	和歌山	0	46	鹿児島	224
15	東京	31	31	鳥取	6	47	沖縄	10
16	富山	0	32	島根	20			
計							681	

以上

☆詳細な報告は、年度末までに作成の「全国私学教育研究集会鹿児島大会研究集録」に記載致します。